

タウリー先生

クラウ村青年団の日本語の勉強の状況について

コミュニティーセンターの日本語の勉強時間は半年前から遅い時間になりました。日曜日の午前9時から12時までです。学生は朝早い時間に家の仕事（掃除、ご飯を作ることなど）、田んぼの仕事（田植え）や牛の世話などを手伝わないといけないですから。しかし忙しくて学校に来られない学生は以前の半年より人数が少ないです。2012年4月から9月の期間をみると、日本語の勉強を続けている学生は11人です。その中で、クラウ村の青年クループの青年は6人です。最初の時からずっと一緒に勉強しています。他の学生はクラウ村に住んでいる高校生です。

教材は、最初はコピーなどでしたが、8月に教科書（みんなの日本語 初級Ⅰ本冊）を学生の全員に渡した後、勉強が前より早く進んでいると思います。第6課は本（みんなの日本語 初級Ⅰ本冊）がなかったので、3ヶ月かかりましたが、第7課は2ヶ月だけでした。学生は家で教科書を読んだり、練習しようとしています。

ソッコムさんとソリーさんは途中に入ってきた学生です。町にある日本語の学校に通っていましたが、1年前に止めてコミュニティーセンターへ来ました。日本語のレベルは他の学生よりちょっと上でした。

青年グループのソポアンさんとヴィスナーさんはソッコムさんの妹と弟です。ずっと頑張って勉強したので、お兄さんと同じレベルになりました。ヴィスナーさんは日本人と話すことが楽しいので、将来日本語のガイドになりたいと言っています。

クラウ村青年団のリーダーのチェット先生とソピー先生は、将来コミュニティーセンターに来る日本人のお客様と日本語で会話するために、一生懸命勉強しています。

チェット先生は、「コミュニティーセンターに来る日本人のお客様は、日本語と英語を混ぜて話します。そして日本人の英語の発音もカンボジア人の英語の発音と違うので、なかなか分からなかったですが、日本語の勉強をしてから、日本人の話す英語も今は以前よりわかるようになりました。」といいました。

ソピー先生は、日本語の勉強は町にある日本語の学校で第15課まで通いましたが、途中で先生が止めて勉強できなくなりました。コミュニティーセンターの日本語のクラスはまだ初級で、日曜日は奥さんを手伝わないといけないので、1回止めましたが、第7課の途中に戻りました。「少し忘れていましたが、頑張って自分でもう一度勉強したら、一緒に勉強できる」と言っています。

青年グループのサウォーンさんは、最初3ヶ月くらい一緒に勉強して難しいと思ったので、途中で止めてしまいましたが、もう一度日本語を勉強したいと思っています。「ずっと勉強を続けている学生がコミュニティーセンターに来た日本人のお客様と日本語で少し話せるようになって、楽しそうなので、自分もお客様と一緒に話したい」と言っています。他の青年3人も新しい日本語のクラスがあったら入りたいと言っています。